

保護者との連携重視

1 ミッション（存在意義）

公立学校である本校は、多様な教育活動を通して、地域子どもたちが本来もっている意欲や向上心、自主性を引き出し、先行き不透明なこれからの時代を「生き抜く力」を獲得させる場であらねばならない。また、在校生や卒業生のみならず、その保護者や学区の地域住民にとって、地域コミュニティの拠点となるべき存在であらねばならない。

2 ビジョン（目指す学校像）

自ら考えて自ら行動できる人材を育成し、地域に貢献する学校

2023 仮校舎移転

2026 新校舎移転

3 中・長期目標 令和4年度（2022）～令和6年度（2024）

- （1） 富士見丘中学校区の子どもに対する義務教育9年間で育成すべき目標を設定し、9年間の系統的なカリキュラムに基づく教育活動が展開できるようにする。
- （2） 富士見丘中学校区の子どもたちの教育課程外のカリキュラムを計画・実施できる体制を構築し、学校教育と一体化した教育活動が展開できるようにする。
- （3） 学校施設を活用した総合型スポーツクラブ等を立ち上げ、部活動の運営を委託し、学校と一体化した地域の生涯スポーツ・学習の拠点とする。

4 今年度の重点目標

本校の3つの教育目標の中の「自ら行動する人」の育成を重点目標とする。

（1）「自ら行動する人」とは

- 生徒像Ⅰ 挑戦しようという意欲をもっている生徒
- 生徒像Ⅱ 自分で計画を立てることができる生徒
- 生徒像Ⅲ 一生懸命に物事に取り組むことができる生徒
- 生徒像Ⅳ 目的を理解し自分で解決方法を考えられる生徒
- 生徒像Ⅴ 自己肯定感が高く自信のある生徒

（2）「自ら行動する人」を育成するために教師がなすべきこと

- 目標Ⅰ 一人一人の生徒が活躍できる機会をできるだけ多くすること。
 - ⇒ 学級活動（日直・係・班活動）の充実、生徒会活動の活性化
 - ⇒ 生徒の一人一人の目標を把握し、適切に評価すること
- 目標Ⅱ 生徒主体の学校行事の運営を行うこと。
 - ⇒ 生徒会活動、運動会、文化祭、宿泊行事は生徒実行委員会中心で企画・運営すること
 - ⇒ 学級・学年のリーダーを育成すること
- 目標Ⅲ 学習面での不安解消に努めること（学習で自信喪失させないこと）。
 - ⇒ 家庭学習習慣を身に付けさせる。※タブレットPCの活用
 - ⇒ 「ふじみルーム」「放課後学習」の効果的な活用
- 目標Ⅳ 生徒理解、教育相談活動を充実させること。
 - ⇒ 面談、やり取り帳など生徒とのコミュニケーションを積極的に図ること
 - ⇒ 生徒のよい点、頑張った点を見つけて伝えること

目標Ⅴ 「協働的な課題解決学習」に積極的に導入すること。

⇒ 教科指導（学期１回以上）、学級活動、総合的な学習の時間に全校で実施すること

⇒ 特に生徒の意欲を引き出すテーマを設定し、「課題解決」を目指す活動を行うこと

５ その他の目標

（１）生活指導

- ① 生徒が不登校にならないようきめ細やかな対応をする。
- ② 不登校生徒との信頼関係の構築を目指し、不登校生徒の保護者と緊密に連携する。
- ③ いじめの早期発見・対応を心掛け、生徒が安心して登校できる学校にする。
- ④ 礼節を重んじ、しっかり挨拶のできる生徒にする。

（２）進路指導

- ① 全員が適切な第一志望に進学できるよう進路指導を行う。
- ② 進路に関する情報発信を増やし、進路相談を充実させる。
- ③ 学習意欲を高める。

（３）特別活動

- ① 生徒が本気になれる行事を行う。
- ② 生徒の自主性・主体性を伸ばす活動を行う。
- ③ 社会貢献活動を取り入れ、ボランティアマインドを醸成する。

（４）総合的な学習

- ① 育成すべき力を明確にし、系統性を重視した活動を行う。（安易に行事準備にあてないこと）
- ② 探求的な学習活動を取り入れる。

（５）学校運営

- ① PDCAのマネジメントサイクルに基づく教育実践を行う。
- ② 規則を基盤とした発想から成果を基盤とした発想に、前例踏襲から創造的な実践を行う。
- ③ 担当校務分掌の課題改善に取り組む。

（６）働き方改革

- ① 「運動部活動のあり方に関する指針」を遵守する。 ⇒ 部活動改革
- ② 週当たりの在校時間を 60 時間以内にする。

（７）要配慮生徒への支援

- ① 実効性のある個別の指導計画を作成する。
- ② 『個別担当制（ICS）』を導入し、取りこぼしのない組織的対応を行う。

Ⅰ 部活動改革

- ・単一種目から多様な種目を経験。生涯スポーツの基礎作り。
- ・学校教育から社会教育へ移行。（教員の働き方改革）

Ⅱ PTA改革

- ・学校支援組織から社会教育団体への明確な転換。
- ・くじ引きによる役員選出を手上げ方式に。

6 校長行動指針

- ① 唯一無二である一人一人の子どもを大切にする教育活動を推進する。
⇒個に応じた指導を充実する。ふじみルームを有効に活用する。
- ② 「目的」を明確にし、「成果」を検証するマネジメントに基づく学校運営を行う。
⇒各種学力調査、アンケート調査を活用する。
- ③ 教職員一人一人が最大限の力を発揮できるような職場環境を整える。
⇒出退勤時間の管理、時間外労働の実態把握、個別面接を実施する。
- ④ 次世代を担うミドルリーダーを育成する。
⇒分掌、学年組織を強化する。主幹・主任層のOJTを充実する。
- ⑤ 若手教員の指導力向上を図る。
⇒授業力向上、学級経営に関する自主研修（職員会議後）を実施する。
- ⑥ 学校運営協議会・学校支援本部と協働した効果的な運営体制を整備する。
⇒地域とともにある学校作りを推進する。
- ⑦ 想定外のない危機管理体制を構築する。
⇒常に危機管理意識をもち、事故防止に努める
- ⑧ 教職員とのコミュニケーションを大事にする。
⇒相談しやすい環境づくりを進める。
- ⑨ 小中一体的な整備（～2025年度）を常に意識し、諸準備を計画的に行う。
⇒教育課程外の連携（子促事業）や中学校区での熟議（拡大地教連）を実施する。
- ⑩ 不登校生徒の支援に積極的に取り組む。
⇒ふじみルームの活用。不登校生徒の保護者との定期的な面談を実施する。

7 成果指標

（1）杉並区教育調査

① 学校満足度	保護者 64.3%	⇒	<u>75.0%</u>	
② 学級満足度	生徒 82.6%	⇒	<u>90.0%</u>	80.0

（2）学校運営協議会「学校生活に対する意識調査」

	R03 (R02)	
Q17 毎日、学校に来るのが楽しい	△73.6(73.3)%	⇒ <u>80.0%</u>
Q09 自分の努力が先生たちに認められていると思う	△63.9(57.1)%	⇒ <u>70.0%</u>
Q12 学校行事が自分の力を発揮できる場になっている	△68.1(63.1)%	⇒ <u>75.0%</u>
Q22 自分で何かに挑戦してやろうという意欲が強くなった	△64.4(55.3)%	⇒ <u>70.0%</u>
Q01 授業はわかりやすく楽しい	△80.1(79.3)%	⇒ <u>80.0%</u>
Q10 悩んだときに相談できる先生がいる	△63.0(52.5)%	⇒ <u>70.0%</u>

（3）生徒意識調査

〔02〕あなたは将来社会に貢献できる人になりたいと思いますか

肯定率 85.1% (76%) ⇒ 80.0%

〔10〕定期考査前以外で、授業のある日の家庭学習時間の平均時間

まったくやっていない 17.4% (23%) ⇒ 5.0%